

教育行政報告

最近の教育行政について報告いたします。

○ 最近の学校の様子について

1学期は、大きな事故もなく、各校で予定されていた行事等が滞りなく行われ、子どもたちも元気に日々の学校生活を送ることができました。7月23日から33日間の夏季休業に入りましたが、連日の猛暑日が続く中、部活動やプールの開放等においては、各校ともに熱中症対策を十分に講じた上で、安全に実施することができました。また、熊の出没が確認された際には、保護者に緊急一斉メールを配信し、注意喚起とあわせて送迎のご協力をお願いするなど、児童生徒の安全確保に努め、命に関わる大きな事故もなく、安全に過ごすことができております。

2学期が8月25日から始まっておりますが、引き続き、熱中症予防や体調管理等、暑さ対策を講じるほか、急激な天候の変化も予測されるため、状況に応じた対応を迅速に行って参ります。加えて、熊の出没にも十分に警戒し、いち早く情報を収集するとともに、保護者と連携を密にしながら、安全な登下校の確保に努めて参ります。2学期は、小学校においては自然教室や修学旅行、学習発表会、中学校では学校祭などの大きな行事が数多く予定されております。子どもたち一人一人が充実した学校生活を送ることができるよう、各小・中学校と密接な連携を継続して参ります。

また、教育支援センター「ぱすてる」には、現在、小中学生合わせ21名が通室しております。学校以外での学びの場を保障する目的としての効果は大きく、保護者の方々からも感謝の声が寄せられております。1学期中に2名の生徒が学校に復帰することができ、「ぱすてる」の退室につながっております。今後も、学校及び関係機関と連携を図りながら児童生徒への支援を着実に進めるとともに、不登校児童生徒数の減少に取り組んで参ります。

○ 児童生徒による各種大会等の結果について

6月29日、県営陸上競技場で行われた全国小学生陸上競技交流大会秋田県予選会において、走り高跳びと80mハードルの複合競技・女子コンバインドAで、金浦小学校6年生が秋田県記録を更新して優勝したほか、2位に平沢小学校6年生、金浦小学校6年生が3位とにかほ市勢が表彰台を独占しております。また、女子800mで金浦小6年生さんが優勝する好成績を収めております。女子コンバインドAで2位、3位に入賞した阿部さんと池田さん、そして、女子800mで優勝した佐藤さんの3人は、8月11日青森市で行われた東日本大会に出場し、池田さんが走り高跳びで見事優勝の榮譽に輝いております。なお、秋田県予選会の女子コンバインドAで優勝した鈴木さんは、11月2日に横浜市日産スタジアムで行なわれる全国大会への出場を予定しております。

7月20日の全県中学総合体育大会・陸上競技における男子共通3000mで、2位の成績を収めた仁賀保中学校2年生が8月6日・7日に福島市で開催された東北大会に出場し、第17位と奮闘されております。

7月6日の全日本吹奏楽コンクール秋田県中央地区大会では、仁賀保中学校と象潟中学校が小編成の部において金賞を獲得し、8月1日に開催された県大会へ駒を進めております。

○ WRO Japan 2025 秋田中央地区予選会について

7月13日、国際ロボットコンテストWROの公認予選会が総合福祉交流センター「スマイル」を会場に開催されました。本大会は、子どもたちの創造性と課題解決能力を育成することを目的に2010年から実施しています。

本市と由利本荘市から、小学生部門には4校5チーム、中学生部門には4校7チーム、高校生部門には2チームが参加して、ロボットの組み立てとプログラミングによる高度な課題のクリアを目指し、その技術を競い合いました。

結果は、エレメンタリー（小学生）部門で平沢小学校が見事優勝を飾っております。

○ 防災対策セミナーについて

7月14日に金浦公民館を会場に総合防犯設備士の柳瀬わかなさんをファシリテーター役に開催し、青少年育成にかほ市民会議や防犯協会の役員の方々な

どを含む 35 名の参加がありました。

昨今の特殊詐欺や強盗、空き家を狙った窃盗などの犯罪が全国で多発している状況を受け、今、身に付けておきたい知識や対策、判断力を養い、自分自身はもとより家族や大事な人の命を守るため、実践方式を取り入れた研修により参加者全員で考え、安全な地域社会にするためのノウハウを学ぶ、貴重かつ有意義なセミナーとなりました。

○ 講座等の 3 公民館合同開催について

昨年度より Zoom 配信を活用した公民館講座を実施しており、今年度は 7 月 15 日にヨガ講座を開催しました。金浦公民館に講師が居ながら、仁賀保と象潟の両公民館でも同じように受講できることもあって、参加者数は徐々に増えてきております。

7 月 16 日の高齢者学級は、仁賀保勤労青少年ホームにおいて 3 公民館の合同企画で開催しております。講師にジオパーク国際交流員カトリーナ・キリンジャー氏を迎え、にかほ市の自然の豊かさを新たな視点から再発見できた勉強会となりました。

7 月 19 日は、3 公民館の放課後子ども教室を合同で開催しました。冬師に向いて、田んぼの中の生きもの観察を行っております。この教室は、農林水産課とのコラボレーション企画で、秋田県立大学の教授と学生からの参加を得て、より専門的な解説を聞くことができ、大変充実した教室となりました。

今後も 3 公民館の合同事業を増やし、交流を深めて参ります。

○ 「南極・昭和基地ライブトーク」について

7 月 26 日、国立極地研究所と連携協定を結ぶ白瀬南極探検隊記念館で、全国 4 か所の科学館や博物館と南極昭和基地をオンラインで結ぶ「南極・昭和基地ライブトーク」が開催され、当記念館では 35 名の参加がありました。

双方向でのライブ映像を通じて、現地で活動中の第 66 次南極観測隊員が、基地の内部や活動内容を紹介されたほか、質問コーナーで当記念館からは 3 名の小学生が質問するなど、赤道を超え遠く離れた南半球の極地で活動する現地隊員と交流が深められる機会となりました。

○ 青少年育成にかほ市民会議リーダー研修会について

7月31日から1泊2日の日程で、市内3中学校の生徒会役員等を主体に、リーダーとしての自覚を高めること、他校生徒との交流を通して連帯意識の高揚と資質の向上を図ること、ふるさとの魅力について学ぶことを目的とする青少年育成にかほ市民会議による研修会が行われました。

昨年度に続き、松島町の中学生4名が本市を訪れて、本市中学生12名と寝食を共にし、学びと交流を深めております。

初日は、防災士の斉藤亜希さんを講師に、災害時において防災リーダーはどうあるべきかを実践方式によって学びました。

2日目は、映像制作会社の株式会社Studio QWAと仁賀保高校生徒会の協力を得て、リーダーにとって必要なものとは何かを学び、それをほかの人に伝えるインプットとアウトプットの研修に取り組みました。伝え方では、30秒の動画をAIを活用してCM仕立てで制作し、作品を各校に持ち帰って発表することとしました。

この2日間の交流と学びは、今後の生徒会活動において幅広い視野をもって取り組んで行くことにつながる、大変有意義な研修となりました。

○ 第41回奥の細道象潟全国俳句大会について

41回目の「奥の細道象潟全国俳句大会」は、8月2日に市制20周年記念を冠した大会として象潟公会堂で実施しました。池田修三作品や松尾芭蕉のタペストリーを会場内に展示披露したほか、市内茶道団体による抹茶の振る舞いやオカリナの生演奏、金浦華道団体の生け花で会場を彩って参加者をもてなし、大会を盛り上げました。

投句は、子どもの部には、市内小・中学校全7校から678句、一般の部では全国各地の262人から442句と昨年よりも3%ほど多く寄せられております。選者には高浜虚子のひ孫で国際俳句協会会長の職にある星野高士（ほしのたかし）氏に務めていただき選評をしていただいたほか、「俳句は多作多捨」と題してご講演いただいております。

子どもの部では特選3句、秀逸10句、佳作15句、一般の部では特選3句、秀逸10句、佳作20句を入選句として授賞式を行い、特選の6句については、今後1年間、蚶満寺境内の看板に掲示し披露いたします。

一般の部には、仁賀保高校全生徒からの応募があり、5句が入選、そのうちの3人が表彰式に参加されております。

○ 「米村でんじろう実験教室」について

8月10日と11日の2日間、総合福祉交流センター「スマイル」を会場に実験教室を開催しております。10日は「夏だ！ひんやり実験にチャレンジ!」、11日は「空気で実験！空気砲実験にもチャレンジ!」をテーマに、両日とも午前午後の2回、計4回の教室を実施しました。延べ363人の来場者が科学の楽しさと不思議を体験し、奥深さと新たな発見を得られていました。

サイエンスプロデューサーとして著名な米村でんじろう先生の実験教室から、多くのなぜ？なに？に触れるこうした体験は、子どもたちの将来のさまざまな考える力の糧になるものと考えております。

○ 第13回鳥海山伝承芸能祭の開催について

今年度の伝承芸能祭は9月7日、仁賀保勤労青少年ホームを会場に開催いたします。出演は、鳥海山小滝舞楽保存会、金浦神楽保存会、横岡番楽保存会、冬師番楽保存会、釜ヶ台番楽保存会の市内5団体を予定しています。

また、市制20周年の記念企画として、鳥海山オリジナル曲によるフラダンスの特別出演にて、伝承芸能祭に花を添える計画としております。

こうした発表と観覧の機会を通じて、民俗芸能の伝承、そして、シビックプライドの醸成のきっかけとなることを期待しております。

○ 市民文化祭について

今年度は、創作・体験コーナーやバザー、お茶会に加え、飲食コーナーを全ての会場に配置する計画で準備を進めております。参加型交流イベントは、総務課や仁賀保高校と連携し、『eスポーツ体験会』を金浦公民館「軽運動室」を会場に実施する予定であります。

「発表部門」は、10月18日と19日の2日間、仁賀保勤労青少年ホームを会場に開催し、アーカイブ配信も予定しております。また、市制20周年記念として、メディアでもご活躍されている本市出身の「あきた芸者」和丸さんより2日目19日の芸能祭にご出演いただきます。司会を務めていただくほか、お祝いの曲での舞踊の披露があります。

「展示部門」は、11月1日から3日までの3日間で開催します。今年度は、これまでの会場配置に変化を加え、子どもたちの展示を全て象潟体育館に集約

する予定としています。同一会場で他校の児童生徒作品を鑑賞することで、子どもたちの創造力と発想力の向上につなげると同時に、賑わいの創出を図って参ります。

また、これまで3公民館で開催してきた展示部門の配置については、会場内の展示をより充実させるため、仁賀保と象潟の2館で開催する予定で、出展団体等と協議調整を進めております。関係団体の交流の機会を増やすことで、互いに刺激を受け、尊重し合うことで文化活動の活性化を図って参ります。

○ ペンシルロケット発射70周年記念事業について

宇宙を目指す日本で最初のロケット発射試験が東京都国分寺市や本県の道川海岸で行われた昭和30年から、本年は70年となります。そこで、11月16日、仁賀保勤労青少年ホームを会場に、国立天文台教授の阪本成一(さかもとせいいち)氏と東京大学生産技術研究所糸川研究室の林紀幸(はやし のりゆき)氏を講師に迎え、ペンシルロケット発射70周年記念事業講演会の開催を計画しております。

道川海岸での飛翔実験に使用されたペンシルロケットは、長さ30cmの小さなロケットで、フェライト子ども科学館では、このレプリカを展示していることもあり、阪本教授より、新たに発見された実機の常設展示について本年5月に提案を受けております。県内初の常設展示とこの機会に合わせた講演会により、日本のロケット開発は秋田が始まりであったことに理解を深め、地域への誇りと宇宙や科学への興味・関心を高めてもらおうと計画するものであります。

当該事業に関して必要な補正予算案を、今定例会に提出しております。